



本多記念講演（Honda Memorial Lecture）

本多記念講演は、本会の創設会長である本多光太郎博士の学界、業界に尽くされた功績を永く記念し、併せて科学と技術の進歩発展に寄与することを目的に、本多博士死去の翌年、昭和 30 年（1955 年）春から毎年開催されている。

金属などの材料に関する学術および技術分野において卓越した業績を挙げた者の功績を称えると共に、この者を講師として、我が国物理冶金学の先駆者である本多光太郎博士の名を冠する権威ある講演会を開催し、当該分野の知を普及させると共に材料科学諸分野の発展の礎としている。

本多記念講演歴

受賞回	受賞年月	演 題	講 師
第1回	1955年4月	結晶学的観点と金属学の進歩	西山善次
第2回	1957年4月	鑄造法における最近の進歩	浜住松二郎
第3回	1958年4月	軽合金の最近の進歩	大日方一司
第4回	1959年4月	鉄鋼製錬技術の進歩	湯川正夫
第5回	1960年4月	粉末冶金学の最近の進歩	松川達夫
第6回	1961年4月	特殊鋼の進歩	佐藤知雄
第7回	1962年4月	金属の腐食防食に関する科学の発展について	岡本剛
第8回	1963年4月	製鉄業における塑性加工の実際	富山英太郎
第9回	1964年4月	磁性体理論の展開	広根徳太郎
第10回	1965年4月	鋼材溶接の進歩	関口春次郎
第11回	1966年4月	金属液体の構造と物性	竹内栄
第12回	1967年4月	回復と再結晶	鈴木秀次
第13回	1968年4月	鋼線の進歩	西岡多三郎
第14回	1969年3月	金属結晶の強度について	鈴木平
第15回	1970年4月	塑性加工技術の研究開発-基礎と応用のつながり	五弓勇雄
第16回	1971年4月	金属の高純度精製と化合物の格子欠陥制御	井垣謙三
第17回	1972年4月	鋼の合金元素としての窒素	今井勇之進
第18回	1973年4月	面心立方金属の結晶塑性における二、三の問題	高村仁一
第19回	1974年4月	時効性合金の基礎的問題とその開発	村上陽太郎
第20回	1975年4月	合金の応力腐食割れ	下平三郎
第21回	1976年4月	製鋼過程の鋼中の水素に関する実験室的研究	不破祐
第22回	1977年4月	金属中の転位-点欠陥および転位-不純物原子相互作用	橋口隆吉
第23回	1978年4月	鋼の強化組織と耐破壊特性	荒木透
第24回	1979年4月	高温における金属の変形と転位挙動	辛島誠一
第25回	1980年4月	Fe-Ni-Cr 合金の局部腐食について-孔食・隙間腐食割れ・応力腐食割れ	久松敬弘
第26回	1981年4月	鉄鋼製錬の化学熱力学的研究	三本木貢治
第27回	1982年4月	超高压電子顕微鏡その場実験法の発展と応用	井村徹
第28回	1983年4月	火力および原子力発電用継目無鋼管の進歩	池島俊雄
第29回	1984年4月	スラグ-メタル間のりん分配について	盛利貞
第30回	1985年4月	高純度鉄中の溶質原子の挙動と機械的性質	木村宏
第31回	1986年4月	マルテンサイト変態における応力ならびに磁場効果	清水謙一
第32回	1987年3月	高分解能電子顕微鏡法の発展と材料科学への応用	平林眞
第33回	1988年3月	核的手法による金属の研究	藤田英一
第34回	1989年4月	金属間化合物-その期待される将来	和泉修
第35回	1990年4月	コンピュータの材料科学への応用	堂山昌男
第36回	1991年4月	金属材料におけるアモルファス化の効果	増本健
第37回	1992年4月	CALPHAD (計算状態図)の進展	西沢泰二

本 多 記 念 講 演 歴

第38回	1993年3月	金属材料の高温変形機構	吉 永 日出男
第39回	1994年3月	超高電圧電顕法を中心とした原子クラスターの研究	藤 田 廣 志
第40回	1995年4月	未知の領域, 金属間化合物の魅力	鈴 木 朝 夫
第41回	1996年3月	表面処理技術鳥瞰	増 子 昇
第42回	1997年3月	アモルファス材料のナノ尺度構造	鈴 木 謙 爾
第43回	1998年3月	拡散研究の歩み	小 岩 昌 宏
第44回	1999年3月	最近の超伝導材料について	太刀川 恭 治
第45回	2000年3月	金属材料におけるマイクロメカニクス	森 勉
第46回	2001年3月	単相合金の高温変形について	及 川 洪
第47回	2002年3月	「計算組織学」における最近の発展と将来展望	宮 崎 亨
第48回	2003年3月	材料の非破壊評価とスマートマテリアル	岸 輝 雄
第49回	2004年3月	セラミックスの組織制御と粒界制御	佐久間 健 人
第50回	2005年3月	透過型電子顕微鏡による材料の組織およびプロセス評価における最近の進歩	坂 公 恭
第51回	2006年3月	メタ磁性転移を示す遍歴電子系	深 道 和 明
第52回	2007年3月	鋼のベイナイトとその工業的重要性	牧 正 志
第53回	2008年3月	医療用チタン合金の材料特性	花 田 修 治
第54回	2009年3月	溶融金属および合金の微細構造	早稲田 嘉 夫
第55回	2010年3月	合金状態図と先端材料設計	石 田 清 仁
第56回	2011年3月	破壊現象における水素の機能	南 雲 道 彦
第57回	2012年3月	Ti-Ni系形状記憶合金の研究と開発経緯	宮 崎 修 一